

The Japan Society of Educational Sociology

日本教育社会学会

第62回大会 プログラム

2010

平成22年9月
18日(土)・19日(日)



大会日程

前 日：9月17日（金）		
17:00 ～ 19:00	若手研究者交流会	第3学舎：集合場所 C404 (C401・C402・C403 などで分会)
第1日：9月18日（土）		
8:45 ～	受付	第3学舎：（東側）ロビー
9:20 ～ 11:50	研究発表Ⅰ	第3学舎
11:50 ～ 12:50	昼食	
12:50 ～ 13:35	総会	第3学舎：D302 教室
13:35 ～ 13:50	学会賞授与式	第3学舎：D302 教室
13:50 ～ 14:00	休憩・移動	
14:00 ～ 16:00	研究発表Ⅱ	第3学舎
16:00 ～ 16:10	休憩・移動	
16:10 ～ 18:10	研究発表Ⅲ	第3学舎
18:10 ～ 18:30	移動	
18:30 ～ 20:30	懇親会	100周年記念会館ホール
第2日：9月19日（日）		
8:45 ～	受付	第3学舎：（東側）ロビー
9:10 ～ 12:10	研究発表Ⅳ	第3学舎
12:10 ～ 13:00	昼食	
13:30 ～ 16:30	シンポジウム	第3学舎：ソシオ AV 大ホール
13:30 ～ 16:30	課題研究1	第3学舎：D302 教室
13:30 ～ 16:30	課題研究2	第3学舎：D401 教室

各種会合

前 日（9月17日）		
15:00 ～ 16:00	紀要編集委員会	第3学舎：C302 教室
15:00 ～ 16:00	研究委員会	第3学舎：C303 教室
16:00 ～ 17:30	常務会	第3学舎：A302（第2会議室）
18:00 ～ 20:00	理事会	第3学舎：A302（第2会議室）
第1日（9月18日）		
11:50 ～ 12:50	総会 打ち合わせ	第3学舎：A302（第2会議室）
第2日（9月19日）		
12:10 ～ 13:00	課題研究1 打ち合わせ	第3学舎：B204 教室
12:10 ～ 13:00	課題研究2 打ち合わせ	第3学舎：B205 教室
12:10 ～ 13:00	シンポジウム 打ち合わせ	第3学舎：B202 教室
12:10 ～ 12:55	評議員懇談会	第3学舎：A302（第2会議室）

ご案内

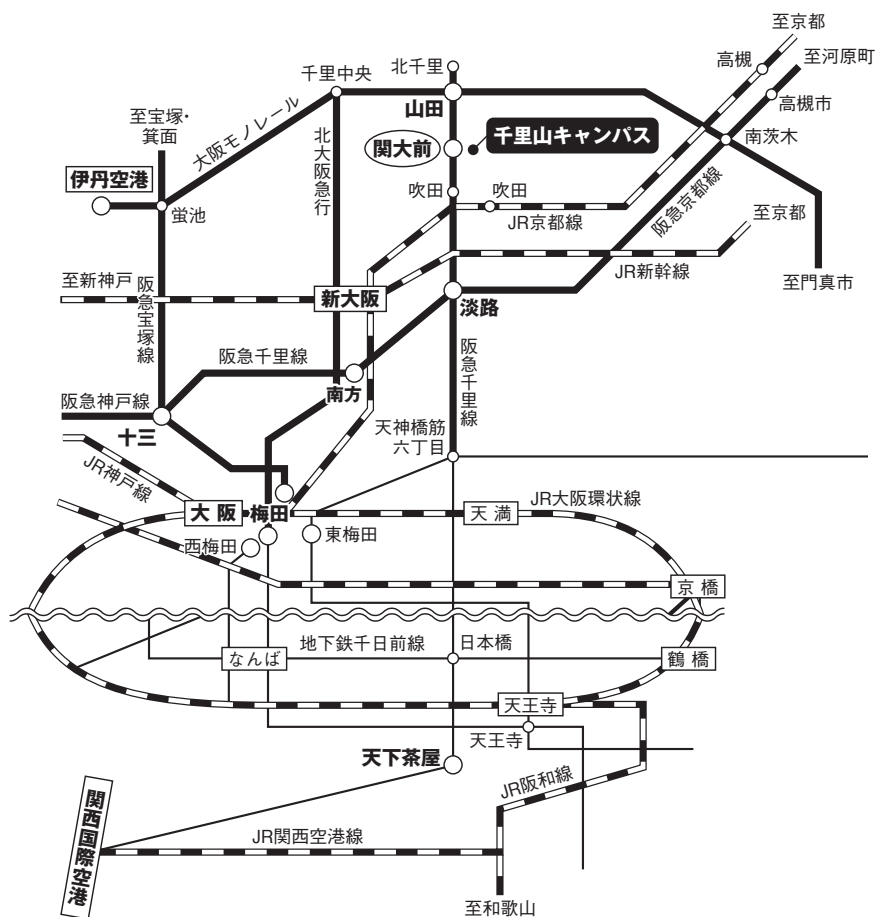
1. 会 場 関西大学 千里山キャンパス
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西大学 社会学部 (第3学舎)
☆連絡先 同上 日本教育社会学会 第62回大会実行委員会
TEL : 06-6368-0706 (岩見研究室) FAX : 06-6368-0082 (学部共用)
E-mail : kyousha-taikai2010@nifty.com
2. 受 付 午前8時45分より、社会学部(第3学舎) 東側ロビーで受付を行います。
エスカレータを利用するなどして西側玄関から入られた場合は、廊下を通
ってこちらの方にお越しください。
- 【大会参加費】 一般会員 4,000 円
大学院生・研究生会員 3,000 円
臨時会員 5,000 円
※大学院生・研究生会員の方は大会受付で身分証をご提示ください。身分証の
提示がない場合は一般会員の参加費となりますのでご注意ください。
- 【懇親会費】 4,500 円 (大学院生・研究生会員は3,000 円 です)
- 【名札】 受付で名札をお渡しします。所属・氏名をご記入ください。
大会期間中の会場内では必ず名札をお付けください。
3. 発表時間 発表時間は、発表者の人数によって下記のようになります。
発表者 1名・・・・・・発表 20分+質疑応答 5分
2名・・・・・・発表 40分+質疑応答 10分
3名以上・・・・・・発表 60分+質疑応答 15分
発表終了5分前に1鈴、終了時刻に2鈴、質疑応答終了時刻に3鈴
の合図をします。発表時間は厳守願います。
4. 欠席の場合 発表者が欠席するときは、大会前日(9月17日)までに必ず、大会実行委
員会にE-mail またはFax でお知らせください。
発表者が欠席の場合に、発表時間の繰り上げは行いません。
5. 発表者の方へ:カラー資料作成の手引き～色覚バリアフリーの実現にむけて～
本学会では、学会発表や学会活動のさまざまな場面において 「色覚バ
リアフリー」 の実現をめざしています。色覚バリアフリーとは、色彩の識別
が困難な人たちが一定の割合でいらっしゃるという科学的見地にもとづき、
大会発表資料等におけるカラー色の使い方の配慮など、適切な工夫が必要
であるという考え方です。誰にとってもわかりやすい資料提示をめざし、
特にカラー資料の提示の際には、次の点にご配慮くださいますよう、お願
い申し上げます。

- ① 赤と緑の識別が困難な場合が多いので、配慮する。
- ② レーザーポインターは、緑のポインターが望ましい。
- ③ 明度の差を利用し、コントラストのはっきりした色の塗り分けを工夫する。
- ④ 輪郭線や境界線で、塗り分けの境を強調する。
- ⑤ ひとつの図版に使う色数は、なるべく少なくする。
- ⑥ 対象箇所を各色で示さず、場所や形でも指定する。
(例：この四角い赤のマークは...)

6. 資料のコピー 大会校によるコピーサービスは行いません。研究発表用の配布資料等は、各自が必要な部数をご用意ください。
7. 昼 食 大会期間中は、大学の夏季休業中のため学内の食堂は利用できません。近隣の飲食店をご利用ください。
8. 会員控室 会員控室にはお茶・お菓子等を用意しております。ご利用ください。
9. 一時保育(託児) 本大会では参加会員のために一時保育のサービスを行います。空きが出た場合などは適宜受け入れますので、実行委員会までお問い合わせください。
10. クローク 大会開催中は、クロークでお荷物をお預かりします。ただし、貴重品は携帯してください。懇親会時には会場の荷物置き場をご利用ください。
11. 抜き刷り・資料交換コーナー 会員の持ち込まれた抜き刷りは、会員控室に置くことができます。研究交流の一助にしてください。
12. 書籍販売 大会会場では、書籍販売を行います。
13. 懇親会 9月18日(土)18時30分から、関西大学100周年記念会館ホールにて懇親会を開催します。皆様お誘い合わせの上、ご参加ください。関西の美味しい飲み物・食べ物をご用意してお待ちしております。
※当会館の使用時間の関係で、18時30分ちょうどに開宴いたしたいと存じますので、部会終了後、できるだけ速やかにご参集くださるよう是非ともご協力ください。なお、懇親会の間、お荷物は会場の中に用意しておりますテーブルに置くようお願いいたします。
14. 喫煙場所 喫煙は、屋外の決められた場所で行います。

大会ウェブサイト： <http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~ea6d001/jses2010/>
 (教育社会学会のウェブサイト： <http://www.gakkai.ne.jp/jses/>からも入れます)

関西大学への交通アクセス



◆新幹線をご利用の場合

- ・「新大阪」駅からJR「大阪」駅に向かい、そこから阪急電鉄を利用。

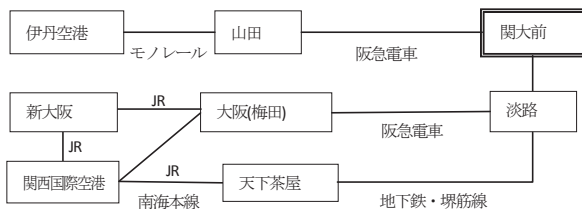
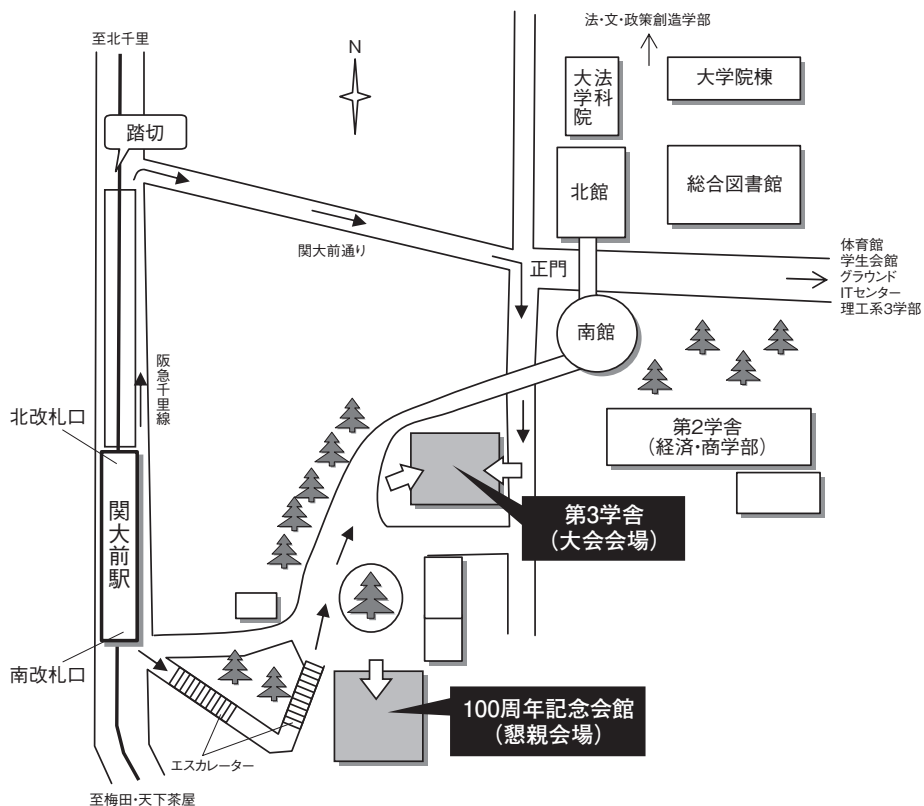
◆阪急電車を利用の場合

- ・阪急「梅田」駅より「北千里」行乗車で、「関大前」駅にて下車。徒歩約5分。
- ・京都方面からは、途中「淡路」駅にて「北千里」行に乗り換え、「関大前」駅にて下車。

◆飛行機をご利用の場合

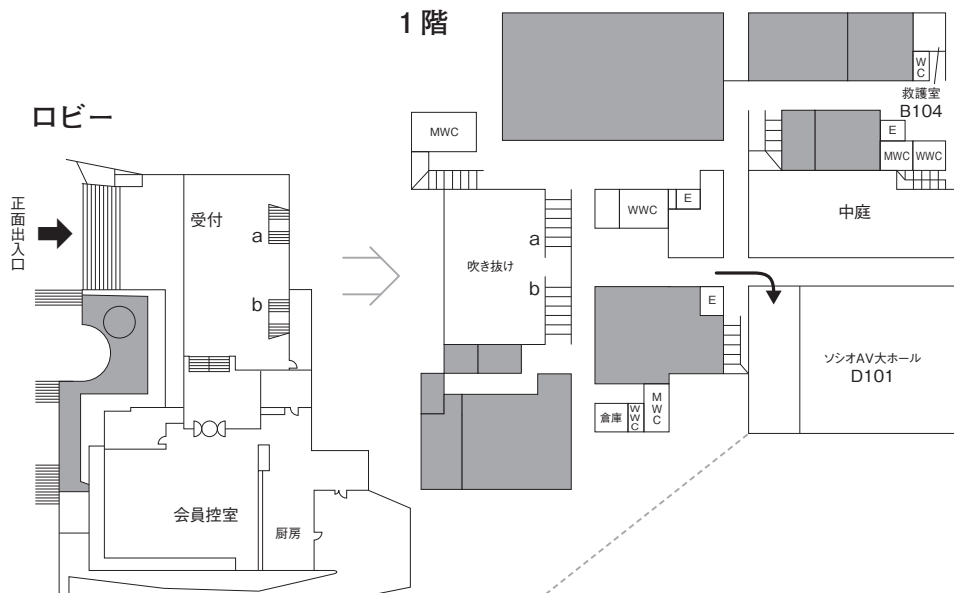
- ・大阪国際空港(伊丹空港)……大阪モノレール「門真市」行で「山田」駅下車。阪急電車に乗り換え、「関大前」駅下車。
- ・関西国際空港……特急はるか「京都(米原)」行で、JR「新大阪」駅にて下車(所要時間 45 分)。あるいは、関空快速「京橋(大阪)」行で、JR「大阪」駅にて下車(所要時間 63 分)→阪急電車に乗り換え。
- または、南海ラピート「南海難波方面」行で、途中「天下茶屋」駅にて地下鉄堺筋線「北千里」行に乗り換え、「関大前」駅にて下車。

大会会場へのアクセス

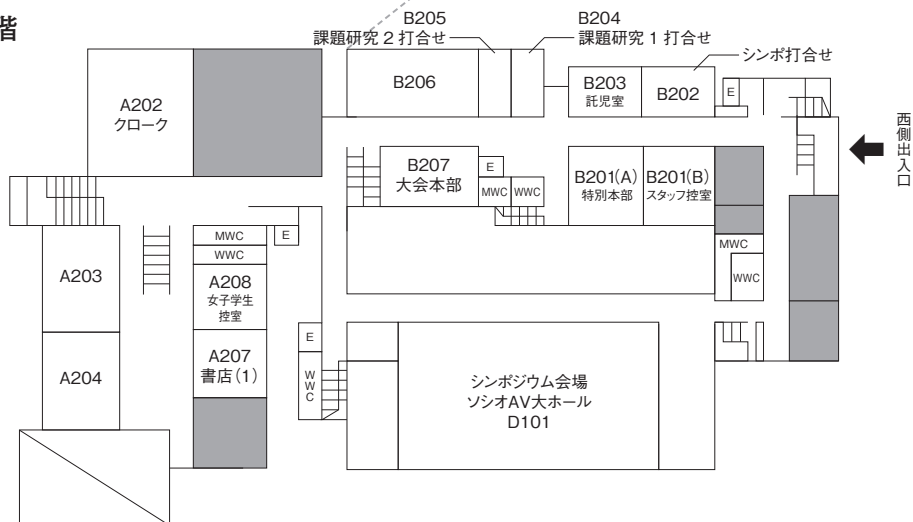


会場案内図（第3学舎）

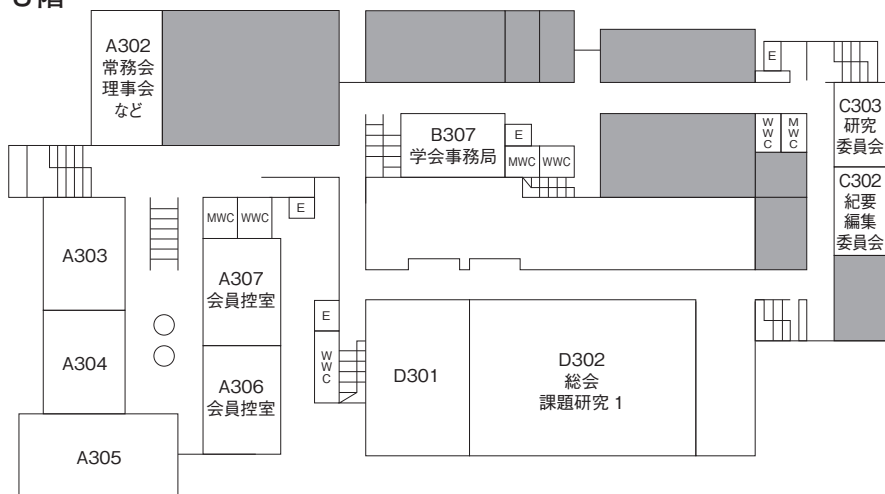
1 階



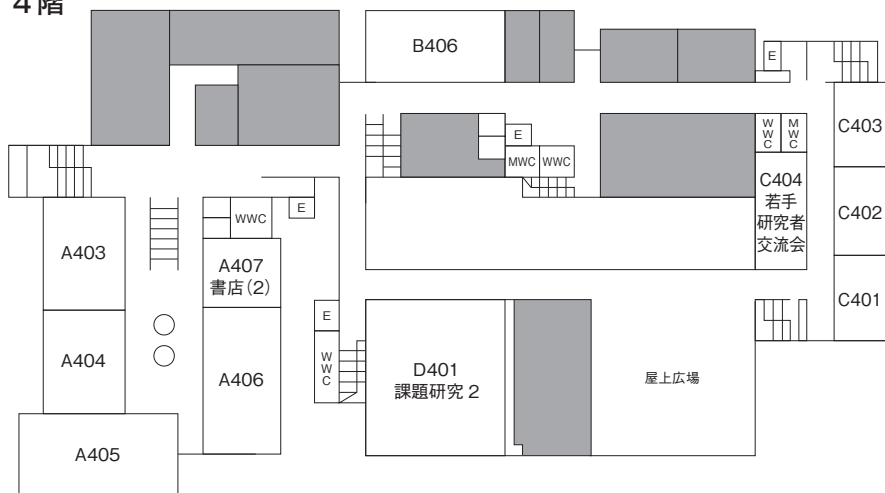
2 階



3階



4階



目 次

◇9月17日（金）

若手研究者交流会 （17:00～19:00）

会 場

ページ

第3学舎 C404 1

◇9月18日（土）

研究発表Ⅰ （9:20～11:50）

I-1	【テーマ部会】若者支援の現状と課題（1）	第3学舎	B206		2
I-2	学校（1）	第3学舎	A203		3
I-3	【テーマ部会】歴史研究の可能性	第3学舎	A204		4
I-4	異文化と教育（1）	第3学舎	A303		5
I-5	学歴と職業キャリア	第3学舎	A304		6
I-6	子ども（1）	第3学舎	A305		7
I-7	教師（1）	第3学舎	D301		8
I-8	不登校	第3学舎	B406		9
I-9	進路と教育（1）	第3学舎	A403		10
I-10	非大学型的高等教育	第3学舎	A404		11
I-11	高等教育の経営行動	第3学舎	A405		12
I-12	学校の教育実践	第3学舎	A406		13

研究発表Ⅱ （14:00～16:00）

Ⅱ-1	【テーマ部会】社会化研究の最前線	第3学舎	B206		14
Ⅱ-2	ジェンダーと教育	第3学舎	A203		15
Ⅱ-3	教育の歴史（1）	第3学舎	A204		16
Ⅱ-4	東アジアの教育	第3学舎	A303		17
Ⅱ-5	高等教育のカリキュラム	第3学舎	A304		18
Ⅱ-6	地域社会と教育	第3学舎	A305		19
Ⅱ-7	教師（2）	第3学舎	D301		20
Ⅱ-8	学校に行かない子ども	第3学舎	B406		21
Ⅱ-9	国際化のなかの学力	第3学舎	A403		22
Ⅱ-10	教育の政策と制度（1）	第3学舎	A405		23
Ⅱ-11	家族と教育	第3学舎	A406		24

研究発表Ⅲ (16:10～18:10)

Ⅲ-1	教育病理	第3学舎	B206		25
Ⅲ-2	学校(2)	第3学舎	A203		26
Ⅲ-3	教育の歴史(2)	第3学舎	A204		27
Ⅲ-4	教育と差別・人権	第3学舎	A303		28
Ⅲ-5	教育と階層	第3学舎	A304		29
Ⅲ-6	子ども(2)	第3学舎	A305		30
Ⅲ-7	教師(3)	第3学舎	D301		31
Ⅲ-8	社会構造と教育(1)	第3学舎	B406		32
Ⅲ-9	家族の教育戦略	第3学舎	A403		33
Ⅲ-10	理論・研究法	第3学舎	A404		34
Ⅲ-11	教育の政策と制度(2)	第3学舎	A405		35
Ⅲ-12	大学生の就職活動	第3学舎	A406		36

◇9月19日(日)

研究発表Ⅳ (9:10～12:10)

IV-1	【テーマ部会】若者支援の現状と課題(2)	第3学舎	B206		37
IV-2	学校(3)	第3学舎	A203		38
IV-3	【テーマ部会】「共生」と教育の課題	第3学舎	A204		39
IV-4	異文化と教育(2)	第3学舎	A303		40
IV-5	外国の教育	第3学舎	A304		41
IV-6	教育費	第3学舎	A305		42
IV-7	大学教員	第3学舎	D301		43
IV-8	社会構造と教育(2)	第3学舎	B406		44
IV-9	進路と教育(2)	第3学舎	A403		45
IV-10	大学教育	第3学舎	A404		46
IV-11	教育の政策と制度(3)	第3学舎	A405		47
IV-12	青少年	第3学舎	A406		48

課題研究 (13:30～16:30)

1	子どもの貧困と教育(2)ー学校で何ができるかー	第3学舎	D302		49
2	教育調査の在り方を問い直すー量的研究の課題と展望ー	第3学舎	D401		50

公開シンポジウム (13:30～16:30)

「子どもの性」を考えるー多様化する情報・消費社会のなかでー	ソシオAV大ホール		51
-------------------------------	-----------	-------	----

9月17日(金)17:00-19:00

集合場所:C404

若手研究者交流会

この度、第62回日本教育社会学会大会（於：関西大学）にて、第3回目の若手研究者交流会を開催する運びとなりました。

昨年の交流会は、一昨年に続き、教育社会学を専攻する若手研究者たち約70名が集まる盛況なものになりました。交流会後の懇親会にも40名を越える参加があり、議論が大いに盛り上がりました。交流会を支援して下さった皆さま・参加して下さった若手の皆さまには、この場を借りて御礼申し上げます。

さて、すでにお届けしましたブリテンにも記載されておりますように、今年度の若手研究者交流会は、大会前日の9月17日（金）、17:00～19:00に開催されます。なお、ここで言う「若手研究者」には、大学院生・学部生・研究生・各種研究員・オーバードクター・助教・講師・准教授・とくに所属のない方等、教育社会学に関心のある方を広く含みます。実年齢に関係なく、社会人大学院生・学生等も含まれます。学会会員・非会員の別も問いません。

当日は、数グループに分かれて、「博士論文・修士論文の書き方」「研究者の就職について」「共同研究の実際」「教育実践と研究の関係」といった個別テーマを設け、若手のあいだで自由に意見交換を行う催しを企画しております。交流会終了後には、大会校近辺での懇親会も企画しております。

教育社会学を専攻する若手たちの集いを盛り上げていきますように、学会員の皆様のご支援・ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

研究委員会 若手研究者交流会 推進委員

川口俊明（福岡教育大学）

垂見裕子（お茶の水女子大学）

須藤康介（東京大学大学院）

連絡先:wakatekoryu@yahoo.co.jp

【テーマ部会】 若者支援の現状と課題（1）

司 会

川北 稔（愛知教育大学）・本田由紀（東京大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:20－9:45 | 1. 実証研究の成果は何を社会にもたらすのか？
——システム間の連関の観察と「社会的なるもの」構築へのコミュニケーションの接続——
新谷周平（千葉大学） |
| 9:45－10:10 | 2. 就労支援事業の課題と意義
——社会的背景、具体的事例の検討を踏まえて——
居郷至伸（横浜国立大学） |
| 10:10－10:35 | 3. 「居場所」はどのように達成されているか
——民間フリースペースにおける非専門職スタッフの環境統制ワークに着目して——
滝口克典（東北公益文科大学大学院） |
| 10:35－11:00 | 4. 若者自立支援政策における「居場所」事業の可能性
御旅屋 達（東京大学大学院） |
| 11:00－11:50 | 総括討論 |

学校（１）

司 会

菊地栄治（早稲田大学）・田中統治（筑波大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:20-9:45 | 1. 「通常学校」における特別支援教育のエスノグラフィー
原田琢也（京都市立久世中学校） |
| 9:45-10:10 | 2. 一困難校における「総合的な学習の時間」実践をめぐる意味世界への多
声的アプローチ
濱元伸彦（貝塚市立第一中学校） |
| 10:10-11:25 | 3. 「総合的な学習の時間」のカリキュラム特性と機能
——10年目の総括——
○紅林伸幸（滋賀大学）
○越智康詞（信州大学）
○川村 光（関西国際大学） |
| 11:25-11:50 | 総括討論 |

【テーマ部会】 歴史研究の可能性

司 会

木村涼子（大阪大学）・橋本鉦市（東京大学）

研究
発表
I

- | | |
|-------------|---|
| 9:20-9:45 | 1. 子どもの身体の発見と〈トランジション〉の成立
——小学校令および工場法の成立過程から——
元森絵里子（明治学院大学） |
| 9:45-10:10 | 2. 新聞投書欄から見た努力主義の論理
大川清丈（甲子園大学） |
| 10:10-11:00 | 3. 旧制中学生徒の出身家庭と学業達成および進路
——神戸一中学籍データの分析より——
○保田その（龍谷大学非常勤）
○加藤善子（信州大学） |
| 11:00-11:50 | 総括討論 |

異文化と教育(1)

司 会

生田周二（奈良教育大学）・中島智子（プール学院大学）

9:20-9:45

1. ドイツにおけるイスラーム宗教教育

——ムスリムの子どもをめぐる——

山根絵美（大阪大学大学院）

9:45-10:10

2. 越境移動と進路形成

——滞日経験をもつブラジル人青年の生活史分析から——

児島 明（鳥取大学）

10:10-11:25

3. フィリピン系ニューカマーと国際結婚

——教育に対する意識と資源の多様性に着目して——

○角替弘規（桐蔭横浜大学）

○家上幸子

（教育支援グループEd.ベンチャー）

○三浦綾希子（一橋大学大学院）

○額賀美紗子（和光大学）

清水睦美（東京理科大学）

金 侖貞（首都大学東京）

11:35-11:50

総括討論

学歴と職業キャリア

司 会

飯吉弘子(大阪市立大学)・米澤彰純(東北大学)

9:20-9:45

1. 大卒・大学院卒者の所得関数分析

——職業に注目して——

○島 一則(広島大学)

藤村正司(新潟大学)

9:45-10:10

2. 大学の学校歴を加味した教育・職業達成分析

平沢和司(北海道大学)

10:10-11:25

3. ゼロ年代の教育と初期キャリア

——JGSS-2009 ライフコース調査の分析——

○岩井八郎(京都大学)

○轟 亮(金沢大学)

○阿形健司(同志社大学)

○岡田丈祐(京都大学大学院)

11:25-11:50

総括討論

子ども（1）

司 会

内田 良（愛知教育大学）・森 繁男（京都女子大学）

9:20－9:45

1. 教室空間での教師

——子どもの相互作用——

小沼 豊

（文部科学省・名古屋大学大学院）

9:45－10:35

2. 学校外活動の分化に関する考察

——スポーツ活動を中心として——

○西島 央（首都大学東京）

○木村治生（ベネッセコーポレーション）

○鈴木尚子（ベネッセ教育研究開発センター）

10:35－11:25

3. 小中一貫校における「お世話活動」の実態と役割

樋口直宏（筑波大学）

○石井久雄（明治学院大学）

○遠藤宏美（明治学院大学非常勤）

11:25－11:50

総括討論

教師（１）

司 会

小島秀夫（茨城大学）・蓮尾直美（三重大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:20－9:45 | 1. 教師による教育改革の受容に関する調査研究
大橋隆広（比治山大学） |
| 9:45－10:10 | 2. 成果主義・評価は、教職にどのように浸透したか？
油布佐和子（早稲田大学） |
| 10:10－11:25 | 3. 教員採用戦略にみる教育委員会の役割と課題
○布村育子（埼玉学園大学）
○坂本建一郎（時事通信出版局）
○陣内靖彦（聖徳大学） |
| 11:25－11:50 | 総括討論 |

不登校

司 会

秋葉昌樹（龍谷大学）・酒井 朗（大妻女子大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:20-9:45 | 1. フリースクールにおける不登校対応の心理主義化
井上 烈（京都大学大学院） |
| 9:45-10:10 | 2. 不登校の親の会利用者の「不登校観」とその変容
菊地千夏（北海道大学大学院） |
| 10:10-10:35 | 3. 「不登校」児童生徒に開かれた学校空間の可能性
森田次朗（京都大学大学院） |
| 10:35-11:00 | 4. 不登校の居場所で何がおこなわれているか
高山龍太郎（富山大学） |
| 11:00-11:25 | 5. 大学生の不登校者数の推定と実態把握
○井出草平（大阪大学非常勤）
水田一郎（神戸女学院大学）
谷口由利子（大阪大学大学院） |
| 11:25-11:50 | 総括討論 |

進路と教育（１）

司 会

腰越 滋（東京学芸大学）・村山詩帆（佐賀大学）

9:20－10:35

1. 家庭的背景と子どもの学業達成

——JELS2009(1) ——

- 耳塚寛明（お茶の水女子大学）
- 垂見裕子（お茶の水女子大学）
- 蟹江教子（お茶の水女子大学非常勤）
- 王 傑（お茶の水女子大学）
- 中島ゆり（お茶の水女子大学）

10:35－11:25

2. 進路多様校生のその後

——高校入学時から卒後2年の継時的研究——

- 西田亜希子（京都精華大学）
- 片山悠樹（名古屋商科大学）
- 中村高康（大阪大学）
- 岩田 考（桃山学院大学）
- 知念 渉（大阪大学大学院）
- 藤原 翔（日本学術振興会特別研究員）

11:25－11:50

総括討論

非大学型の高等教育

司 会

小方直幸（広島大学）・塚原修一（国立教育政策研究所）

9:20－10:10

1. 高等専門学校生の意識と展望

- 小澤昌之（慶應義塾大学大学院）
- 山田美都雄（東京大学大学院）
- 早坂めぐみ（東京学芸大学大学院）

10:10－11:25

2. 人材養成目的と労働市場との対応性に関する研究
——専門学校を中心として——

- 吉本圭一（九州大学）
- 稲永由紀（筑波大学）
- 渡邊和明
（福岡カレッジ・オブ・ビジネス）
- 藤川秀幸（教育ビジネス学園）
- 江藤智佐子（久留米大学）

11:25－11:50

総括討論

高等教育の経営行動

司 会

加野芳正（香川大学）・大膳 司（広島大学）

9:20－9:45

1. 寄附募集事業から見た戦前期私立大学の経営行動

——慶應義塾の事例から——

戸村 理（東京大学大学院）

9:45－10:10

2. ポスト拡大期の学校法人経営

——大学法人・短大法人の財務と法人傘下校の規模調整に着目して——

渡部芳栄（広島大学）

10:10－11:25

3. 少子化時代の学校法人の経営行動

——学校法人の拡大・連携に関する調査から——

荒井克弘（大学入試センター）

○佐藤直由（東北文化学園大学）

○猪股歳之（東北大学）

○小入羽秀敬（東京大学大学院）

白旗希実子（日本学術振興会特別研究員）

11:25－11:50

総括討論

学校の教育実践

司 会

志水宏吉（大阪大学）・中澤 渉（東洋大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:20-9:45 | <p>1. 職場としての学習塾</p> <p style="text-align: right;">早坂めぐみ（東京学芸大学大学院）</p> |
| 9:45-10:10 | <p>2. 習熟度別指導と学力</p> <p style="text-align: right;">須藤康介（東京大学大学院）</p> |
| 10:10-10:35 | <p>3. 困難校における「即興的实践」の帰結</p> <p style="text-align: right;">青木美幸（中央大学大学院）</p> |
| 11:35-11:25 | <p>4. ゆとり教育再編期における教育実践と生徒文化</p> <p style="text-align: center;">——「高校生文化と進路形成の変容（第3次調査）」より——</p> <p style="text-align: right;">○大和多直樹（東京大学）</p> <p style="text-align: right;">○金子真理子（東京学芸大学）</p> <p style="text-align: right;">樋田大二郎（青山学院大学）</p> <p style="text-align: right;">岩木秀夫（日本女子大学）</p> <p style="text-align: right;">耳塚寛明（お茶の水女子大学）</p> <p style="text-align: right;">荻谷剛彦（オックスフォード大学）</p> <p style="text-align: right;">堀 健志（日本女子大学非常勤）</p> <p style="text-align: right;">SIM CHOON KIAT（日本大学非常勤）</p> <p style="text-align: right;">岡部悟志（ベネッセ教育研究開発センター）</p> <p style="text-align: right;">中西啓喜（青山学院大学大学院）</p> <p style="text-align: right;">平木耕平（東京大学大学院）</p> |
| 11:25-11:50 | <p>総括討論</p> |

【テーマ部会】 社会化研究の最前線

司 会

浅川和幸（北海道大学）・高橋征仁（山口大学）

研
究
発
表
Ⅱ

- | | |
|-------------|--|
| 14:00－14:25 | 1. 社会化研究における相互性の問題
高橋征仁（山口大学） |
| 14:25－14:50 | 2. 社会化にみる言語の政治
棕尾麻子 |
| 14:50－15:15 | 3. 知識伝達と親子間相互作用
——バーンスティン理論による絵本の読み聞かせ分析——
○天童睦子（名城大学）
清矢良崇（関西学院大学） |
| 15:15－16:00 | 総括討論 |

ジェンダーと教育

司 会

中西祐子（武蔵大学）・中山慶子（静岡県立大学）

- | | |
|-------------|---|
| 14:00－14:25 | 1. 「教育環境・活動に関する調査」に基づくジェンダー・バイアスの研究
○木村育恵（北海道教育大学）
高 篤 学（東京学芸大学） |
| 14:25－14:50 | 2. 女子中高生のキャリア意識に影響を与える要因
○星野敦子（十文字学園女子大学）
津 吹 卓（十文字中学校・高等学校）
亀田温子（十文字学園女子大学） |
| 14:50－15:15 | 3. 短期大学における秘書科の変遷過程に関する研究
江藤智佐子（久留米大学） |
| 15:15－16:00 | 総括討論 |

教育の歴史（１）

司 会

井上好人（金沢星稜大学）・佐々木啓子（電気通信大学）

- | | |
|-------------|---|
| 14:00－14:25 | 1. 公立名門高等女学校の同窓会誌にみる「あるべき女性像」
土田陽子（京都大学） |
| 14:25－14:50 | 2. 1950年代における夜間定時制高校の生徒文化
——草の根教養主義の変容を中心に——
前田 崇（千葉大学） |
| 14:50－15:15 | 3. 農繁期託児所による子どもの生活への介入過程とその帰結
——「高度経済成長期」前半における東北農村の事例から——
増田 仁（熊本大学） |
| 15:15－15:40 | 4. 教師と学生のコミュニケーション
——「私淑」の社会学的研究——
稲垣恭子（京都大学） |
| 15:40－16:00 | 総括討論 |

東アジアの教育

司 会

王 傑（お茶の水女子大学）・白川優治（千葉大学）

- | | |
|-------------|---|
| 14:00－14:25 | 1. 中国における奨学金の進学・学習行動への効果
王 帥（東京大学大学院） |
| 14:25－14:50 | 2. 中国の高等教育大衆化と大卒者の就職
——1999 年と 2004 年における上海市の大卒者就職調査の比較——
李 敏（広島大学） |
| 14:50－15:15 | 3. 韓国法曹界の特徴分析
——学校歴とキャリアに着目して——
朴 炫貞（東京大学大学院） |
| 15:15－15:40 | 4. 韓国における多文化教育研究の動向に関する考察
李 承赫（一橋大学大学院） |
| 15:40－16:00 | 総括討論 |

高等教育のカリキュラム

司 会

稲永由紀（筑波大学）・濱名 篤（関西国際大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14:00－14:25 | 1. 高等教育におけるスクールバスモデルの研究(その1)
豊島雅和（埼玉学園大学） |
| 14:25－14:50 | 2. 学生の海外派遣事業におけるFD・SD プログラム開発の試み
——大学間連携の取り組みから——
乾 美紀（神戸大学） |
| 14:50－15:15 | 3. 戦後日本の大学におけるキャリア支援の歴史的展開
谷田川ルミ（上智大学大学院） |
| 15:15－15:40 | 4. 大学教科書に見られる知識の変化の速度に関する実証研究
——専門分野間比較の観点からの分析——
原田健太郎（広島大学大学院） |
| 15:40－16:00 | 総括討論 |

地域社会と教育

司 会

岡崎友典（放送大学）・千葉聡子（文教大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14:00－14:25 | 1. 離島の夜間定時制高校と地域特性（Ⅱ）
千葉勝吾（東京都立大島高等学校） |
| 14:25－14:50 | 2. 外国人児童生徒に対する教師の認識枠組みをいかに捉えるか
——母語支援サポーターのストラテジーに着目して——
坪田光平（東北大学大学院） |
| 14:50－15:15 | 3. 自治体の教育改革の取り組み方と小学校英語活動の導入・実施状況
大森 愛
（東京大学非常勤・国際基督教大学準研究員） |
| 15:15－16:00 | 総括討論 |

教師（２）

司 会

紅林伸幸（滋賀大学）・陣内靖彦（聖徳大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14:00－14:25 | 1. 教師はいかに「発達障害」とかかわっているのか
吉澤茉帆（広島大学大学院） |
| 14:25－14:50 | 2. 教師文化に関する組織論的考察
——同調圧力言説に着目して——
鈴木雅博（東京大学大学院） |
| 14:50－15:15 | 3. 教師の「苦しみ」の意味生成プロセスに関する社会学的研究
——ライフストーリーの社会構成主義的分析——
肥田 武（名古屋大学大学院） |
| 15:15－16:00 | 総括討論 |

学校に行かない子ども

司 会

石飛和彦（天理大学）・田村雅夫（相山女学園大学）

14:00－14:25

1. 長期欠席の社会的要因

山本宏樹（一橋大学大学院）

14:25－15:40

2. 学校に行かない子ども(1)

- 酒井 朗（大妻女子大学）
- 加藤美帆（お茶の水女子大学）
- 坪井 瞳（大妻女子大学）
- 伊藤秀樹（東京大学大学院）

15:40－16:00

総括討論

国際化のなかの学力

司 会

江原武一（立命館大学）・山田礼子（同志社大学）

- | | | |
|-------------|--|---|
| 14:00－14:25 | 1. 学力の生産関数の推定 | ○野崎祐子（広島大学）
平木耕平（東京大学大学院）
篠崎武久（早稲田大学）
妹尾 渉（国立教育政策研究所） |
| 14:25－14:50 | 2. 国際バカロレアに関する一考察 | 御手洗明佳（早稲田大学大学院） |
| 14:50－15:40 | 3. 日独比較からみた教育政策の特質
——PISA ショック後の学力向上と平等性の行方—— | ○石原陽子（ブール学院大学）
○中山あおい（大阪教育大学）
山根絵美（大阪大学大学院）
森田英嗣（大阪教育大学） |
| 15:40－16:00 | 総括討論 | |

教育の政策と制度（１）

司 会

赤尾勝己（関西大学）・金子元久（国立大学財務・経営センター）

研究発表Ⅱ

14:00–14:25

1. 大学入試に見る知識の型と能力観

—日本・アメリカ・ヨーロッパとの比較から—

渡邊雅子 (名古屋大学)

14:25–15:40

2. 教育のナレッジ・マネジメント

○立田慶裕（国立教育政策研究所）

○岩崎久美子（国立教育政策研究所）

○ 舩井圭子（国立教育政策研究所）

15:40–16:00

総括討論

家族と教育

司 会

加藤隆雄（南山大学）・濱名陽子（関西国際大学）

- | | |
|-------------|--|
| 14:00－14:25 | 1. 乳幼児をもつ女性保護者の育児ストレスの分析（2）
——家族形態別の規定要因の共通点と相違点——
池田隆英（地位確認等の係争中） |
| 14:25－14:50 | 2. 危険嗜好と親の管理状況
——パワー・コントロール理論の応用——
小林恵美子（金沢大学） |
| 14:50－15:15 | 3. 自助グループの相互支援実践における社会関係資本の働き
——不登校児「親の会」の事例から——
山田哲也（一橋大学） |
| 15:15－15:40 | 4. 階層分化装置としての「開かれた住まい」
高橋 均（光塩学園女子短期大学） |
| 15:40－16:00 | 総括討論 |

教育病理

司 会

伊藤茂樹（駒澤大学）・原 清治（佛教大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:10－16:35 | 1. 「スクールカースト」とは何か？
——首都圏の公立中学生を対象とした質問紙調査の分析から——
鈴木 翔（東京大学大学院） |
| 16:35－17:00 | 2. 矯正教育実践の比較研究
——カリフォルニア・ティーンコートと日本・少年院での参与観察から——
古賀正義（中央大学） |
| 17:00－17:50 | 3. 少年矯正の教育テクノロジー
——SST(Social Skill Training)の導入過程からみる矯正合理性とは——
広田照幸（日本大学）
○平井秀幸（日本学術振興会特別研究員）
○仲野由佳理（東京学芸大学連合大学院） |
| 17:50－18:10 | 総括討論 |

学校（２）

司 会

飯田浩之（筑波大学）・金子真理子（東京学芸大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:10－16:35 | 1. 学校組織文化の変容に関する研究
——首都圏公立高校の事例分析から——
吉田美穂（中央大学非常勤） |
| 16:35－17:00 | 2. 学校の再生とネットワーク
——同窓会・教師・保護者のつながり——
黄 順姫（筑波大学） |
| 17:00－17:25 | 3. 現代における定時制高校の役割（Ⅲ）
——2009 年定時制・通信制全国調査より——
○大谷直史（鳥取大学）
柿内真紀（鳥取大学）
太田美幸（立教大学） |
| 17:25－18:10 | 総括討論 |

教育の歴史（２）

司 会

木村 元（一橋大学）・竹内 洋（関西大学）

- | | |
|-------------|---|
| 16:10－16:35 | 1. 少年少女にとって文芸とは何だったのか
——1900～10年代の『日本少年』『少女の友』投稿欄比較から——
今田絵里香（京都大学） |
| 16:35－17:00 | 2. 明治期学校行事の「公開」的な側面に関する検討
橋本 勝（静岡英和学院大学） |
| 17:00－17:25 | 3. 明治期における小学校卒業式の変容
——「感情の共同体」の創出——
有本真紀（立教大学） |
| 17:25－17:50 | 4. 戦前期における職業婦人の葛藤
——読売新聞婦人欄「身の上相談」から——
山崎貴子（京都大学大学院） |
| 17:50－18:10 | 総括討論 |

教育と差別・人権

司 会

倉石一郎（東京外国語大学）・高田一宏（兵庫県立大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:10－16:35 | 1. 参加型地域開発教育としてのシカゴ・エリア・プロジェクト
玉井眞理子（関西大学非常勤） |
| 16:35－17:00 | 2. アイヌ民族の教育の実態と構造
野崎剛毅（國學院大學北海道短期大学部） |
| 17:00－17:25 | 3. 〈発達障害児〉をめぐる保育実践の構築
末次有加（大阪大学大学院） |
| 17:25－17:50 | 4. 社会関係資本と排除に関する一考察
木村和美（大阪大学） |
| 17:50－18:10 | 総括討論 |

教育と階層

司 会

中村高康（大阪大学）・山田哲也（一橋大学）

- | | |
|-------------|---|
| 16:10－16:35 | 1. 認知能力の地域差・階層差
島村直己（国立国語研究所） |
| 16:35－17:00 | 2. 学校・家庭生活にみる「子どもの経験の不平等」
——高校生の生活意識調査から——
大澤真平（北海道大学大学院） |
| 17:00－17:50 | 3. 高校階層構造と社会階層・進路・学習意欲
——「高校生文化と進路形成の変容（第3次調査）」より——
○堀 健志（日本女子大学非常勤）
○岡部悟志（ベネッセ教育研究開発センター）
樋田大二郎（青山学院大学）
岩木秀夫（日本女子大学）
耳塚寛明（お茶の水女子大学）
荻谷剛彦（オックスフォード大学）
大多和直樹（東京大学）
金子真理子（東京学芸大学）
SIM CHOON KIAT（日本大学非常勤）
中西啓喜（青山学院大学大学院）
平木耕平（東京大学大学院） |
| 17:50－18:10 | 総括討論 |

子ども（２）

司 会

小針 誠（同志社女子大学）・住田正樹（放送大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:10－16:35 | 1. 親子関係と子どもの学習行動
——「子ども生活実態基本調査」（2004年・2009年）の結果から——
○佐藤昭宏（ベネッセ教育研究開発センター）
邵 勤風（ベネッセ教育研究開発センター）
宮本幸子（ベネッセ教育研究開発センター） |
| 16:35－17:00 | 2. 「夫婦小舎制」
——トータルインスティテューションが何故子どもを育てるのか——
武 千晴（日本女子大学大学院） |
| 17:00－17:25 | 3. パトロールでのコミュニケーションと子どもの安全
大嶋尚史（筑波大学大学院） |
| 17:25－17:50 | 4. 犯罪遭遇時の子どもの行動特性と安全教育の検討
——小・中学生全国調査から——
宮田美恵子（日本女子大学） |
| 17:50－18:10 | 総括討論 |

教師（３）

司 会

越智康詞（信州大学）・油布佐和子（早稲田大学）

- | | |
|-------------|--|
| 16:10－16:35 | 1. 戦後日本における教員の再生産構造
——JGSS-2002 のデータを用いた分析——
髙島修治（東北大学大学院） |
| 16:35－17:00 | 2. 教師の職業的社会的化の研究
——管理職者データの分析——
小島秀夫（茨城大学） |
| 17:00－17:25 | 3. 教師戦略と民間教育研究団体（そのⅠ）
——雑誌『教育』の分析を通して——
SHAKYA DIPU（神戸大学大学院） |
| 17:25－17:50 | 4. 1960年代の養護教諭
——学校関係者、養護教諭養成者が期待したその役割——
杉村直美（愛知県立日進西高等学校・名古屋大学大学院） |
| 17:50－18:10 | 総括討論 |

社会構造と教育（１）

司 会

吉川 徹（大阪大学）・米川英樹（大阪教育大学）

16:10－16:35

1. その後の「排除される若者たち」

——連合ワーキングプア調査の知見から貧困・生活不安定層の20代～40代の経験をたどる——

西田芳正（大阪府立大学）

16:35－17:50

2. 東大社研パネル調査（JLPS）に見る若年者の教育・就業・家族形成

石田 浩（東京大学）

○大島真夫（東京大学）

○元治恵子（明星大学）

佐藤 香（東京大学）

○三輪 哲（東北大学）

○茂木 暁（東京大学大学院）

17:50－18:10

総括討論

家族の教育戦略

司 会

天童睦子（名城大学）・渡辺秀樹（慶應義塾大学）

- | | |
|-------------|---|
| 16:10－16:35 | 1. 階層と親の教育アスピレーション
——中国浙江省某市の3中学校の保護者調査から——
馬 芳芳（お茶の水女子大学大学院） |
| 16:35－17:00 | 2. グローバル化する日本の家族の教育戦略
——ハワイでの親子留学の事例から——
五十嵐洋己（ハワイ大学大学院） |
| 17:00－17:25 | 3. 社会関係資本と子どもの教育達成プロセス
——名古屋市における質問紙調査から——
新城優子（名古屋大学大学院） |
| 17:25－17:50 | 4. 小学校受験家庭の教育観・社会観
望月由起（お茶の水女子大学） |
| 17:50－18:10 | 総括討論 |

理論・研究法

司 会

小内 透（北海道大学）・保田 卓（奈良女子大学）

研究発表Ⅲ

- | | |
|-------------|--|
| 16:10－16:35 | 1. B. バーンステインの「教育コード」理論形成の転機
——1970 年前後に着目して——
吉田直哉（東京大学大学院） |
| 16:35－17:00 | 2. 隠れたカリキュラム概念の再考
——カリキュラム社会学の再評価——
氏原陽子（名古屋女子大学） |
| 17:00－17:25 | 3. 「個別化・個性化教育」再考
森 直人（筑波大学） |
| 17:25－17:50 | 4. 学校臨床社会学における倫理の問題
今津孝次郎（金城学院大学非常勤） |
| 17:50－18:10 | 総括討論 |

教育の政策と制度（2）

司 会

尾嶋史章（同志社大学）・近藤博之（大阪大学）

16:10–16:35

1. 新制高校の設置と増設をめぐる政策の社会的検討

○相澤真一（日本學術振興會特別研究員）

香川めい（立教大学）

児玉英靖（洛星中学・高等学校）

16:35–17:50

2. 学力政策の比較社会学（その2）

——全国学力テストは都道府県に何をもたらしたか——

○志水宏吉（大阪大学）

芝山明義（鳴門教育大学）

○葛上秀文（鳴門教育大学）

○若槻 健（甲子園大学）

○盛満弥生（大阪大学大学院）

前馬優策（大阪大学大学院）

新谷龍太郎（大阪大学大学院）

末岡加奈子（大阪大学大学院）

17:50–18:10

総括討論

大学生の就職活動

司 会

平沢和司（北海道大学）・山内乾史（神戸大学）

16:10-16:35

1. 採用基準という虚構

——大卒就職に着目して——

小山 治（東京大学）

16:35-17:50

2. 「就活」に翻弄される大学生

——進路意識の形成過程に着目して——

○吉田 文（早稲田大学）

○牧野智和（早稲田大学）

○河野志穂（早稲田大学大学院）

○内野恵子（早稲田大学大学院）

前田 崇（千葉大学）

堀谷有史（早稲田大学大学院）

御手洗明佳（早稲田大学大学院）

17:50-18:10

総括討論

【テーマ部会】 若者支援の現状と課題（２）

司 会

乾 彰夫（首都大学東京）・本田由紀（東京大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:10－9:35 | 1. 「後期子ども」の分化とエンパワメントの可能性
——全国調査の結果をふまえて——
菊地栄治（早稲田大学） |
| 9:35－10:25 | 2. 「ジョブ・カード」はどのような制度か？
○筒井美紀（法政大学）
○堀 有喜衣（労働政策研究・研修機構） |
| 10:25－11:25 | 3. 自治体における若者就労支援施策の現状と課題
○本田由紀（東京大学）
○田近恵子（東京大学大学院）
○福田志織（東京大学大学院） |
| 11:25－12:10 | 総括討論 |

学校（３）

司 会

古賀正義（中央大学）・山田浩之（広島大学）

- | | |
|-------------|---|
| 9:10－9:35 | 1. 教室における社会化場面の分析
——「1年生らしさ」の形成過程に注目して——
小野奈生子（中央大学非常勤） |
| 9:35－10:00 | 2. 授業場面の謝罪にみる「児童」集団の形成
越川葉子（立教大学大学院） |
| 10:00－10:25 | 3. 学習塾における雑談
渡邊 稔（わたなべ総合教育研究所） |
| 10:25－10:50 | 4. 学校における専門職間の職業的境界の形成
保田直美（日本学術振興会特別研究員） |
| 10:50－11:15 | 5. 子どもの階層的背景と統制様式についての一考察
前馬優策（大阪大学大学院） |
| 11:15－11:40 | 6. 教室の中の不平等
——保護者の階層は学校にどのような影響を及ぼすか——
川口俊明（福岡教育大学） |
| 11:40－12:10 | 総括討論 |

【テーマ部会】 「共生」と教育の課題

司 会

岡本智周（筑波大学）・牧野智和（早稲田大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:10－9:35 | 1. 教育資源としての「共生」概念
——学校歴史教育における複層的な語り口のための試論——
岡本智周（筑波大学） |
| 9:35－10:00 | 2. 聴覚障害児の統合教育現場における「共生」の実践
——聴児との関係性に着目して——
羽田野真帆（筑波大学大学院） |
| 10:00－10:25 | 3. 軽度発達障害児をめぐる保育所・幼稚園・小学校のエスノグラフィー
——ある地方都市の挑戦 その1——
岡本久美子（名古屋市立大学大学院） |
| 10:25－10:50 | 4. 「子育ての社会化」をめぐる葛藤
——保育者の語りを手がかりにして——
丹治恭子（浜松大学） |
| 10:50－11:15 | 5. 「共生」に見出される社会の課題と教育の可能性
堤 孝晃（東京大学大学院） |
| 11:15－12:10 | 総括討論 |

異文化と教育

司 会

角替弘規（桐蔭横浜大学）・馬淵 仁（大阪女学院大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:10－9:35 | <p>1. スイスの日本語補習校に子を通わせる日本人母親の教育戦略
 渋谷真樹（奈良教育大学）</p> |
| 9:35－10:25 | <p>2. トランスナショナルな教育戦略と地位達成
 ——日系ブラジル人の事例から——
 ○ハヤシザキ カズヒコ（福岡教育大学）
 ○山本晃輔（大阪大学大学院）</p> |
| 10:25－11:40 | <p>3. エスニック・スクールにおける保護者の教育戦略
 榎井 縁（とよなか国際交流協会）
 鍛冶 致（大阪成蹊大学）
 中島智子（プール学院大学）
 ○芝野淳一（大阪大学大学院）
 ○館 奈保子（大阪大学大学院）
 ○棚田洋平（大阪大学大学院）
 ○比嘉康則（大阪大学大学院）</p> |
| 11:40－12:10 | <p>総括討論</p> |

外国の教育

司 会

関口礼子（日本の社会研究所）・渡邊雅子（名古屋大学）

- | | |
|-------------|--|
| 9:10－9:35 | <p>1. アメリカにおける政権交代が教育政策に及ぼした影響
——ノースカロライナ州を事例として——</p> <p style="padding-left: 40px;">米川英樹（大阪教育大学）
○新谷龍太郎（大阪大学大学院）
上田勝江（大阪教育大学大学院）
三城佑太（京都市教育委員会）
浅井貴仁（愛知県庁）</p> |
| 9:35－10:00 | <p>2. 韓国における大学新入生選抜の実態</p> <p style="padding-left: 40px;">金 美蘭（韓国教育開発院）</p> |
| 10:00－10:25 | <p>3. 社会科衰退の社会的意味
——イギリスおよびニュージーランドを事例とする一考察——</p> <p style="padding-left: 40px;">小島文英（国際基督教大学）</p> |
| 10:25－10:50 | <p>4. 保護者の学校選択行動
——カリフォルニア州チャータースクールを事例として——</p> <p style="padding-left: 40px;">宝来敬章（名古屋大学大学院）</p> |
| 10:50－11:15 | <p>5. メキシコの基礎教育の分権化と新自由主義
——途上国の教育発展の歴史的・理論的考察——</p> <p style="padding-left: 40px;">米村明夫（アジア経済研究所）</p> |
| 11:15－12:10 | <p>総括討論</p> |

教育費

司 会

岩永雅也（放送大学）・久富善之（一橋大学名誉教授）

- | | |
|-------------|---|
| 9:10－9:35 | <p>1. 所得格差と教育格差</p> <p>——『家計調査』が示すもの——</p> <p style="text-align: right;">古泉博之（武蔵大学大学院）</p> |
| 9:35－10:00 | <p>2. 家計の教育費支出構造の長期的変化</p> <p style="text-align: right;">都村聞人（東京福祉大学）</p> |
| 10:00－10:25 | <p>3. なぜ日本は高等教育費の公的負担が少ないのか</p> <p>——教育経済学理論による多角的考察——</p> <p style="text-align: right;">松塚ゆかり（一橋大学）</p> |
| 10:25－11:40 | <p>4. 教育財政はどのように削減されたのか</p> <p>——地方分権改革における自治体教育予算の再編過程——</p> <div style="text-align: right;"> <p>○清水睦美（東京理科大学）</p> <p>○内田 良（愛知教育大学）</p> <p>○川上泰彦（佐賀大学）</p> <p>○妹尾 涉（国立教育政策研究所）</p> <p>○松田洋介（金沢大学）</p> <p>○長谷川哲也（名古屋大学大学院）</p> <p>堀 健志（日本女子大学非常勤）</p> <p>山田哲也（一橋大学）</p> <p>平木耕平（東京大学大学院）</p> </div> |
| 11:40－12:10 | <p>総括討論</p> |

大学教員

司 会

秋永雄一（東北大学）・加藤 毅（筑波大学）

- 9:10－9:35 1. 看護系大学教員のロールモデル行動評価得点と職務に関する意識との関連

竹元恵子（園田学園女子大学）

- 9:35－10:00 2. 大学教員の教育行動

小方直幸（広島大学）

- 10:00－10:25 3. 多様化する大学教員の供給源
——第三段階教育の成立のなかで——

潮木守一（元桜美林大学）

- 10:25－11:40 4. 変貌する大学教授職の国際比較(2)
——有識者調査の分析——

○有本 章（比治山大学）
○大膳 司（広島大学）
○木本尚美（県立広島大学）
○葛城浩一（香川大学）
長谷川祐介（大分大学）
小方直幸（広島大学）
村澤昌崇（広島大学）
大橋隆広（比治山大学）

- 11:40－12:10 総括討論

社会構造と教育（２）

司 会

葛上秀文（鳴門教育大学）・望月由起（お茶の水女子大学）

9:10－10:25

1. 社会関係資本と学力

——「つながり格差」仮説の再検討——

- 高田一宏（兵庫県立大学）
- 鈴木 勇（大阪大学）
- 知念 渉（大阪大学大学院）
- 中村瑛仁（大阪大学大学院）
- 志水宏吉（大阪大学）
- 古田美貴（大阪大学大学院）
- 岡邑 衛（大阪大学大学院）
- 藪田直子（大阪大学大学院）

10:25－11:15

2. 家庭的背景と子どもの進路形成

——JELS2009(2) ——

- 王 傑（お茶の水女子大学）
- 中島ゆり（お茶の水女子大学）
- 耳塚寛明（お茶の水女子大学）
- 垂見裕子（お茶の水女子大学）
- 蟹江教子（お茶の水女子大学非常勤）

11:15－12:10

総括討論

進路と教育（2）

司 会

小林雅之（東京大学）・佐藤 香（東京大学）

9:10－9:35

1. 志望順位を決定する要因

——大学入試広報の効果測定——

平尾智隆（愛媛大学）

9:35－10:00

2. 高等教育進学と専攻の変化に関する一考察

長尾由希子（九州大学）

10:00－11:15

3. 単線型メリトクラシーパラダイムの再考

——「高校生文化と進路形成の変容（第3次調査）」より——

○樋田大二郎（青山学院大学）

○岩木秀夫（日本女子大学）

耳塚寛明（お茶の水女子大学）

荻谷剛彦（オックスフォード大学）

大多和直樹（東京大学）

堀 健志（日本女子大学非常勤）

金子真理子（東京学芸大学）

SIM CHOON KIAT（日本大学非常勤）

岡部悟志（ベネッセ教育研究開発センター）

○中西啓喜（青山学院大学大学院）

○平木耕平（東京大学大学院）

11:15－12:10

総括討論

大学教育

司 会

伊藤彰浩（名古屋大学）・武内 清（上智大学名誉教授・放送大学客員教授）

- | | |
|-------------|---|
| 9:10-9:35 | 1. 大学収容率を持つ影響力の都道府県間相違とその背景
上山浩次郎（北海道大学大学院） |
| 9:35-10:00 | 2. 地方私立大学入学者の進学理由
藤本佳奈（広島大学大学院） |
| 10:00-10:25 | 3. 新設大学における退学・休学・留年
——多変量解析による要因分析——
鍛冶 致（大阪成蹊大学） |
| 10:25-10:50 | 4. 自律的学習のプロモーター
——全国大学生調査の分析より——
藤埴智一（宮崎大学） |
| 10:50-11:15 | 5. 大卒職業人における英語スキルの効用
米澤彰純（東北大学） |
| 11:15-11:40 | 6. 企業内処遇に関する大学院学歴価値の過去10年の変容
平尾智隆（愛媛大学）
梅崎 修（法政大学）
○松繁寿和（大阪大学） |
| 11:40-12:10 | 総括討論 |

教育の政策と制度（3）

司 会

阿形健司（同志社大学）・広田照幸（日本大学）

9:10-10:25

1. ユニバーサルアクセス時代の日本における大学入学者選抜の方向性について

——制度比較調査と高三担任調査にもとづいて——

荒井克弘（大学入試センター）

河野銀子（山形大学）

○腰越 滋（東京学芸大学）

○中島英博（名城大学）

○尾中文哉（日本女子大学）

山村 滋（大学入試センター）

10:25-11:40

2. 政策と世論の社会的距離

○矢野真和（昭和女子大学）

○濱中淳子（大学入試センター）

○安藤 理（東京大学）

○小川和孝（東京大学大学院）

大多和直樹（東京大学）

平木耕平（東京大学大学院）

11:40-12:10

総括討論

青少年

司 会

片瀬一男（東北学院大学）・白石義郎（久留米大学）

9:10-9:35

1. 地方における高卒就職のエスノグラフィー

尾川満宏（広島大学大学院）

9:35-10:00

2. 親密圏としてのメディア空間

——携帯サイト「リアル」にみる中高生の振る舞いをめぐって——

山守伸也（関西大学大学院）

10:00-10:25

3. 大学生の友人関係観に関する日中比較

——自己意識との関連を中心に——

穆 旭明（関西大学大学院）

10:25-10:50

4. 貧困家庭の子どものライフストーリー

林 明子（大妻女子大学大学院）

10:50-11:15

5. 青少年の社会化過程における「趣味」

——鉄道ファンのライフヒストリー調査を中心に——

塩見 翔（関西大学大学院）

11:15-12:10

総括討論

子どもの貧困と教育（２）

—学校で何ができるか—

日本における貧困問題の深刻化、そして、貧困・生活の不安定化が子どもの生活と人間形成に及ぼす否定的な影響について、ここであらためて書き記す必要はないだろう。昨年度の課題研究では、日本の貧困層の典型としての母子家庭、小中高校および卒業後の子ども、若者についての現状報告がなされ、討論のなかでは、問題の軽減、改善のためにいかなる方策があり得るのかは次の課題として提起された。今回、「学校で何ができるか」というサブタイトルをつけたのは、こうした経緯からである。その課題を考えるに際し、これまでなされてきた取り組み、今日展開されつつある実践について、諸外国の経験を含めて十分に知ることが不可欠であり、今回の３報告は、そうした観点で選ばれた。

第一報告では、日本の教育における「積極的差別是正措置＝アファーマティブアクション」の必要性を論じる。「補償教育」の考え方を紹介し、実践例としてよく知られているアメリカのヘッドスタートについて特徴と成果、問題点を整理した後、日本での取り組みとして同和教育における学力保障を取り上げ、近年の「効果のある学校」研究の成果にも触れながら「学校には何ができるのか」、「学校ではできないことは何か」について提起する。

続く第二報告は、大阪府立西成高校における近年の実践を、中心的に推進してきた立場から紹介する。６年間におよび同校の改革・再生の取り組みは、生徒の多くが抱える生活背景の困難さに生徒自身が向き合い、乗り越える力を身につけることを目指す「反貧困学習」として結実している。識字運動を背景とし、P.フレイレの「意識化」を戦略として組み込んだ実践は、今後の日本の教育実践にヒントを与えるものだろう。報告では、改革の歴史と到達点、今後の課題が紹介される。

第一報告でも触れられ、続く報告ではより明示的に語られるのが、子どもたち、若者たちの生活を支える手立ての必要性であり、その点で注目されるのが、日本の学校に近年導入され始めたスクールソーシャルワーカーの存在である。第３報告は、ケースワーカーとして貧困状況にある子どもと親の支援に携わり、今日では児童福祉の研究者としてスクールソーシャルワーカーの導入を主導している立場から、制度の概要、その必要性和実際の導入例を紹介する。

報告

1. 「教育における積極的格差是正措置—貧困の世代的再生産を断つために—」
高田一宏（兵庫県立大学）
2. 「子どもの貧困と学校の役割—西成高校のミッション—」
山田勝治（大阪府立西成高等学校，非会員）
3. 「スクールソーシャルワークの可能性—教育と福祉の協働を目指して—」
山野則子（大阪府立大学）

討論者：青木 紀（名寄市立大学）

司会：西田芳正（大阪府立大学，研究委員会）

教育調査の在り方を問い直す —量的研究の課題と展望—

日本における社会調査の在り方には、昨今、大きな変化がみられる。たとえば、社会調査士の資格化とその認定大学の増加、全国レベル・自治体レベルの各種調査の増加は、量的研究が社会の広範に広がりつつあることを示唆している。それは教育においても例外ではない。「全国学力・学習状況調査」をめぐる議論からも明らかなように、教育論議において統計分析の結果が資料として使われる機会は増加している。その一方、統計ソフトウェアの普及や、社会全体における調査ブームにより、ある意味で「安易な」調査や研究の増加を問題とする指摘もしばしばみられる。量的な調査や研究が一般化する一方で、調査・分析方法論の進歩への対応も迫られており、量的調査の在り方自体がより厳しく問われていると言えよう。こうした状況を鑑みれば、教育を量的データで語ることにについて先導的な役割を果たしてきた本学会においても、量的研究の意義と課題を改めて議論する必要があるだろう。

本課題研究では、次の二つの視点から、教育社会学における量的研究を再検討する。一つは統計学的見地からの方法論的妥当性であり、もう一つが教育実践的・政策的な応用可能性である。もちろん、両者がともに高いことが望まれるが、この二つはときに対立関係となる。多くの研究者は、両者のあいだで、それぞれの立場や制約を踏まえ、妥協点を見出しながら研究を進めているのだろう。こうした方法論的妥当性と応用可能性の問題は、今のところ、それほど注目を集めているわけではないが、量的研究が広まる一方で分析手法が精緻化している現在、改めて検討が必要な課題といえよう。国際的な研究動向も踏まえつつ、両者を同時に満たすためには、どのような調査設計がなされるべきであろうか。また実践・応用に即しての調査結果の語りはどうあるべきであろうか。三つの報告をふまえて、今後の教育社会学における量的研究を展望し、そのために学会として検討・支援すべき具体的方策についても議論したい。

報告

1. 「日本の教育社会学における量的研究・量的調査—展開と課題—」
中澤 渉 (東洋大学)
2. 「研究成果の応用可能性—学力調査を中心に—」
西本裕輝 (琉球大学)
3. 「統計学の観点から見た量的研究の課題と今後」
星野崇宏 (名古屋大学、非会員)

討論者：武内 清 (上智大学名誉教授・放送大学客員教授)

司会：岩本健良 (金沢大学、研究委員会)

「子どもの性」を考える —多様化する情報・消費社会のなかで—

○報告

1. 青少年の性行動・性意識の現状—「青少年の性行動全国調査」から—
片瀬一男（東北学院大学）
2. 性的欲望の主体としての少女—女性向け性表現を中心に—
守 如子（関西大学）
3. 性的マイノリティが学校で直面する問題—当事者の語りの中の学生時代から—
佐倉智美（ジェンダー&セクシュアリティライター）

○コメンテーター 月野美帆子（読売新聞）

○コーディネーター 多賀 太（関西大学）

近代社会は、子どもと性の問題について次のような特徴をもつ社会であった。子どもの性的な行動は望ましくないものとされ、子どもは大人社会の性的な情報や環境から遠ざけられてきた。また、少年に性的欲望があることは半ば自明視されながら、少女はあたかも性的欲望を持たない存在であるかのようにみなされてきた。さらに、二元的性別観と異性愛が支配的な家庭や学校において、自らの性自認や性的指向について悩み苦しんでいる子どもたちがいることはほとんど知られてこなかった。

しかし、情報化や消費社会化が目覚ましく進展する今日では、そうした前提は大きく崩れつつある。子どもが大人の性的欲望の対象と見なされたり性的情報の消費者としてターゲットにされたりする機会が増大している。家族や学校は、大人社会の性的な情報や環境から子どもを守ることが極めて難しくなっている。性行動の低年齢化が進むとともに、特に女子において性行動の活発化が見られるようになってきている。さらに、これまで「見えない」存在にされてきた性的マイノリティの存在が徐々に知られるようになってきている。

本シンポジウムでは、こうした子どもと性をめぐる現実の変化をふまえ、近代において自明視されてきた子ども像や教育のあり方を相対化、場合によっては脱構築しつつ、現代の情報・消費社会における新たな子ども像や教育のあり方について議論を深めたい。

2010 年 8 月 5 日 発行

発行者 日本教育社会学会 第 62 回大会実行委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35
関西大学 社会学部

E-mail : kyousha-taikai2010@nifty.com

印刷所 能登印刷株式会社